

「かいせつ」

(2) — ① 線部の後の部分に着目する。

(4) 本文に、「そこでは、小さな魚、イソギンチャク、カニ、ヤドカリなど、海の生き物ものを見ることができます。」とある。「そこ」が、平たいらないその、水たまりを指さしていることを読み取る。そこで見られる海の生き物を、四つ、全すべてぬき出すこと。

(5) — ②線部の後の部分に着目する。

※(2)は順不同。また、「」は、なくてもよい。

⑤		④	③		②※	①
海の生き物の 親	い	海	向かって流れている。	太	「黒しお」	海
	よ	の		平		
	う	生		洋		
	を、	き		を、		
だから。	を、 たくさんふくんできて、	物	南から北に		「親しお」	流
		のための				
		え				

「かいせつ」

(1) 海の中の水の流れ、つまり、海流について書いてある。

(2) ①線部の、「二つの」という言葉に着目する。その後の本文の、「一つは、く」、「もう一つは、く」という言葉が手がかりになる。

(3) 本文に、「この太平洋を、南から北に向かって流れる海流が、黒しおです。」とある。

(4) 本文に、「親しおは、北の海から南に流れてきて、日本^の東で、黒しおとぶつかります。」とある。

(5) 終わりの二つの段落に、着目する。「親」というのは、子どもを育てる役目がある。

ここでは、「親↓親しお」、「子ども↓海の生き物」という組み立てになっている。

親しおは、海の生き物のためのえいようを、たくさんふくんできているから、海の生き物(子ども)を育てる、親なのである。

④	③		②	①
岩の間を泳ぐ魚	B	A	い そ	島国
	海	た		
	の	た とき。	平らないそで、 し お が 引 い	
	生			
	き			
	物			

「かいせつ」

(1) 本文に、「日本は島国で、まわりを海にかこまれています。」とある。

(2) この文章は、海岸の、「すなはま」と「いそ」について書いている。岩場なのは、「いそ」。

(3) A 本文に、「海面と同じくらいの高さに広がる、平らないそでは、しおが引いたときに、水たまりができます。」とある。

B 本文に、「そこでは、小さな魚、イソギンチャク、カニ、ヤドカリなど、海の生き物を見ることができます。」とある。

「そこ」が、水たまりを指していることを読み取る。また、「小さな魚、イソギンチャク、カニ、ヤドカリ」をまとめて、「海の生き物」というていることを読み取る。

(4) — ②線部の後の部分に着目する。

(4)		(3)		(2)	(1)				
B		A		い	海	親	な	地	
い	海	とぶつかる、 という海流。	日		北	流	し <td>流</td> <td>球</td>	流	球
よ	の		本	の	を していること から。	の	の こと。	れ	を ぐるつと回 るような、 大 き
う	生		の	海		水			
を、 たくさん ふくんで いる海流。	き		東	から		が、			
	物	で、	南	黒					
	のため	黒	に流れて きて、	っ					
	の	し							
	え	お			ぽ				

「かいせつ」

(1) 本文に、「それも、地球をぐるっと回るような、大きな流れです。このような流れを海流といいます。」とある。「この」が、前の文を指すことを読み取る。

(2) ②線部の、「二つの」という言葉に着目する。その後の本文の、「一つは、く」、「もう一つは、く」という言葉が手がかりになる。

(3) 本文に、「黒しおは、海流の水が、黒っぽい色をしていることから、その名前がつけられました。」とある。

(4) 親しおについては、終わりの二つの段落に書いてある。



④	③			②		①			
イ	て	よって、	すなはまは、 波にけずられる一方で、	山やおか	平地	海			
	く	す		がけ	なだらかな海岸	の上をふく			
	る						な		
	から。							が	
									運
		れ	に						

「かいせつ」

（１）本文に、「波は、海の上をふく風によって生まれています。」とある。

（２）本文に、「波がよせる所が、平地だと、なだらかな海岸になりますが、山やおかだと、波がぶつかった部分がけずられて、がけができます。」とある。

（３）―②線部の直前の、「ゝのため」という言葉が手がかりになる。「ゝのため」は、理由を表す言葉。

（４）最後の段落から読み取る。「ですから、これから海岸の地形は、少しずつ少しずつ、波によってかわっていくのです。」とあるので、イが正しい。

アとエは、波によってかわる地形の、「れい」なので、「これからの海岸の地形」ではない。ウは、本文に書いていないので、まちがい。



⑤	④		③	②	①				
エ	こと。	な	す	山	平	海			
		く	な	や	地	の			
		な	は	お	に	上			
		っ	ま	か	波	をふく風。			
		て	が、波にけずられて、	に、	がよせてきたとき。				
		し		波					
		ま		がぶつかって、					
		う							

「かいせつ」

(1) 本文に、「波は、海の上をふく風によって生まれています。」とある。

(2)・(3)

本文に、「⁽²⁾波がよせる所が、平地だと、なだらかな海岸になります。が、⁽³⁾山やおかだと、波がぶつかった部分がけずられて、がけができます。」とある。

(4) — ④線部の「そんな」は、前に書いてあることを指す。どんどんけずられて、なくなってしまうはずのものは、何かを読み取る。

「すな」は、すなはまの、「すな」であることに注意する。

(5) 最後の段落から読み取る。「ですから、これから海岸の地形は、少しずつ少しずつ、波によってかわっていくのです。」とあるので、エが正しい。

アは、本文に書いていないので、まちがいです。イとウは、波によってかわる地形の、「きれい」なので、「これからの海岸の地形」ではない。